

一四 茂木治良書状（瀧田文書）

茂木治良、那須資晴に、沢村の地へ出馬なされたと聞いたこと、及び千本氏への警戒について了承したことなどを報じる。

昨夜中之御書中則披見仕候、仍沢村被進御馬之由承候、御様子無御心許奉存候、然者千本用心之儀蒙仰候、今日五日未明ニ親候者被罷越候、其元依御様躰、人衆・足輕以下差越可申候、少も無御隔心可被仰付候、委太田原三川方憑入候間、奉簡略候、恐々謹言、

茂木

（天正十二年九）
二月五日

治良（花押）

鳥山
（那須資晴）

御陣所、江参

【読み下し文】

昨夜中の御書中則ち披見仕^{ひけん}候き。仍つて沢村に御馬を進めらる由承り候き。御様子御心許^{ごころもと}なく存じ奉り候。然れば千本への用心の儀仰せを蒙り候き。今日五日未明に親しき候者罷^{まか}り越され候き。其元御様躰により人衆・足輕以下差し越し申すべく候。少しも御隔心なく仰せ付けらるべく候。委しくは太田原三川方に憑み入れ候つるの間、簡略し奉り候。恐々謹言。